

「今月の1枚」

イチョウ（イチョウ科）

公孫樹、銀杏 *Ginkgo biloba*



裸子植物である落葉性高木。原産地は中国中部とされている。中生代の頃の化石に近縁種が多くみられるが、現存するのはこの種のみである。晩秋期の黄葉が美しく（写真）、都市部では街路樹として良く植栽されている。寿命が長く、各地で巨木がみられる。雌雄異株。秋には悪臭を放つ外種皮を持った実を多数落とすことから敬遠されることがあるが、殻の中は俗に言う“銀杏の実”で茶碗蒸しや酒の肴などに利用される。また、イチョウ葉エキスはドイツなどでは医薬品として認証されている。イチョウ葉は日本から輸出もされていて、山間地でも時々イチョウ林を見かけることある。

（写真：溝淵、文：奥田 2008年12月3日 高知市で撮影）

（No.179 2008.12.4 掲載）



